

第20回日本栄養改善学会

標記の学会は、昭和48年10月3日～5日の3日間にわたり、秋田市に全国から2,000名の会員が参加して行なわれた。分科会は4部門にわかれ、合計425題の報告がなされた。本研究所からは、人口移動部主任研究官内野澄子技官が出席し、第1分科会(栄養指導部門(A))要望課題(1)米食および外食と栄養について、「戦後における外食の変化とその意義」と題する報告を行なった。

なお、本年度のシンポジウムのテーマは「米を考える」、特別講演は「生きるための栄養教育」と題し行なわれ、活発な討論が行なわれた。(内野澄子記)

第25回日本家政学会総会

第25回日本家政学会総会は、昭和48年10月6日および7日の両日にわたり、福島県郡山女子大学において開催された。

一般研究発表は7分科会に分かれ合計347題の報告が行なわれた。本研究所からは、人口移動部内野澄子技官が出席し、6分科会(家庭経営、家政学原論・家族関係)において、「消費生活の地域格差についての1つの分析(2)」と題する報告を行なった。

なお、本年度は、特に世界人口年ということが本学会においても強調された。(内野澄子記)

第46回日本社会学会大会

第46回日本社会学会大会は、昭和48年10月13日(土)、14日(日)の2日間、日本大学の開催、国立教育会館を会場にして開催された。13日午前中の一般研究報告に続いて、午後は、A. 組織変革の理論、B. 上部構造論の再検討—上部構造におけるイデオロギーとユートピア、C. 保健・医療の社会学、D. 全国都市の再編過程、E. 社会学方法論の再検討の以上5つのテーマ部会が設置された。今年度はCが新しい部会として登場し、盛会であったこと、D部会で本研究所の黒田俊夫人口政策部長が「大都市と地方都市間の人口移動」を発表し、注目を集めたことが指摘できる。次いで第2日目は午前中の一般研究報告に続き、午後にはシンポジウム「アジアの社会と文化をどうとらえるか」があり、諸科学の各立場から、アジア研究への視角が論議された。(若林敬子記)

第8回日本老年学会総会・第15回日本老年医学学会総会・第15回日本老年社会学会大会

標記の3学会総会および大会が昭和48年11月1日(木)～3日(土)の3日間にわたり、福岡市中央区渡辺通の電気ホールにおいて開催され、本研究所から、上田正夫(所長)、山口喜一(資料課長)の両技官が出席した。

日本老年学会としては、総会会長(九州大学 勝木司馬之助)講演「久山町の老人について」を始め、特別講演「老衰死はあるか」(東京都養育院附属病院 亀山正邦)および「老人福祉と相続慣行——末子相続と隠居分家」(九州大学 内藤莞爾)が行なわれ、さらにシンポジウムとして、老年社会学会大会・老年医学

会総会の会長（内藤莞爾および九州大学 尾前照雄）司会の下に「老人の生き甲斐」が行なわれ、5報告をめぐっての討論が行なわれた。

日本老年医学会総会においては、会長講演「老年者高血圧について」、特別講演「老化とホルモン」（九州大学 井林 博）、それとシンポジウム「日本人の各種動脈の粥状硬化症の実態とその成因」（司会：九州大学 田中健蔵）があった。医学会における一般演題は278題の多きを数えた。

日本老年社会科学会大会においては、学会長である渡辺定博士の特別講演「日本人の人口年齢構造革命と老年学+ α 」を始め、シンポジウム「生涯教育における高齢者の課題」（司会：中央大学 那須宗一・東洋大学 小山 隆）についての報告と討論があった。また一般演題は35題で、そのうち人口に関連のある報告としては「日本人の平均寿命はまだ延びるか」（厚生省統計調査部 古谷博子・寿命学研究会 渡辺 定）があった。

（山口喜一記）

1973年度日本地理学会秋季学術大会

日本地理学会1973年度秋季学術大会は11月10～14日、広島大学において開催され、一般研究発表、3つのシンポジウム、4つの巡検が行なわれた。このうちシンポジウムのテーマは、「侵食面」、「アジアにおける『緑の革命』と農村の変貌」、「土地の区画」であったが、当研究所からは人口政策部推計科長濱英彦技官が参加して「緑の革命」の座長をつとめた。また、推計科の伊藤達也技官は一般研究発表で「地域出生数に与える諸要因の影響力の大きさ」を報告した。

（濱 英彦記）

第27回日本人類学会・日本民族学会連合大会

第27回日本人類学会・日本民族学会連合大会は、昭和48年11月23日、24日の両日にわたり国立京都国際会館で開催された。

本研究所からは、篠崎信男人口資質部長、青木尚雄能力科長、中野英子主任研究官および分布科清水浩昭の各技官が出席した。

大会第1日目は、藤岡喜慶（愛媛大学教授）の特別講演「精神人類学の構想」、岡 正雄（和洋女子大学教授）の特別報告「映像人類学をめぐって」と一般講演があり、第2日目は一般講演のみが行われた。

本研究所からも大会第2日目に篠崎技官が「人口問題と通婚圏」、青木技官が「最近の子どもの生み方と家族周期」、中野技官が「就業状態からみた日本人女子の出産力について」と題する報告を行った。人口問題に関連する報告として渡辺直経（東京大学教授）の「人口現象における性差」と題する報告があった。

なお、民族学関係ではレヴィ=ストロース以来の構造人類学的問題を背景とした報告が目立った。

（清水浩昭記）

第17回国際連合人口委員会

1973年10月29日から11月9日まで、ジュネーブの Palais des Nations において、第17回国際連合人口委員会（Seventeenth Session of the United Nations Population Commission）が開催され、本研究所人口政策部長である黒田俊夫委員が日本政府代表としてこれに出席した。

国連人口委員会は27か国をもって構成されているが、今回の会議にはガボンとハイチの2か国が欠席し、